

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463193

研究課題名(和文) プロフェッショナリズムの醸成をめざした行動科学系カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of a behavioral science curriculum that creates professionalism

研究代表者

伊藤 孝訓 (ITO, Takanori)

日本大学・松戸歯学部・教授

研究者番号：50176343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「行動科学」について歯学教育の現状を把握するために調査した。その結果、現在、モデルコアカリキュラム等において行動科学に関する教育指針がないために、各大学の担当者は歯科医師に加えて、社会系教員の援助を受けて大学独自にカリキュラムを組んでいることがわかった。行動科学を科目名としているのが6校みられた。その他の科目としては、(医療)コミュニケーションは8校、プロフェッショナリズムは4校、医療倫理は7校、医療面接は5校にみられた。その他多くの種類の科目名称が独自に使われていた。また、時間数についても単位数は1～8単位、実施学年も2年次～6年次までと幅広く実施されていた。

研究成果の概要(英文)：As a result of investigating the current state of dental education about "Behavioral Science", as there is no educational guidelines based on the model core curriculum, it was found that each university is organizing its own curriculum with the aid of social studies teachers.

The subject names were 6 schools of behavioral science, 8 communication, 4 professionalism, 7 medical ethics and 5 medical interviews. Many other subject names were used independently. In addition, the number of units was 1 to 8 units, and the grade of implementation was widely implemented from 2 to 6 years. In the future, we plan to survey the data of all universities, make awareness of the current situation, and intend to propose a model of the behavioral science framework in the dentistry.

研究分野：医療行動科学

キーワード：医療行動科学 行動医学 歯学教育 カリキュラム プロフェッショナリズム 医療面接

1. 研究開始当初の背景

米国においては、既に Behavioral Science in Dental Practice(歯科医療行動科学)として、1980年代にはカリキュラムガイドラインが作成されている。しかし、わが国においては医療行動科学を講座名とした大学はつくられたが学問的普及は進んでいない。これまでの研究は、医療面接、コミュニケーション等について個別に研究報告はされているが、体系化した学問としての報告はみられない。

わが国は特有の医療政策の中で、他国にはみられない患者-医療者関係が生まれ、医療を取り巻く環境は大きく異なる。そのため歯科医師の具有すべきコンピテンス (=能力)も我が国の社会、医療システムの実情に適應した教育として、行動科学の体系化が早急に望まれる。歯科医師の医育体制は、医療人としての豊かな人間性の涵養と専門職としてのプロフェッショナリズムの醸成が既に指摘されているが、対応すべき医育機関に差があることから、医療行動科学のカリキュラムガイドラインを喫緊に作成する必要がある。

2. 研究の目的

共感的・全人的医療を展開するには、単に歯科医療技術だけでなく人間行動そのものを理解しなければならない。人間行動を科学的に理解するには、人間の思考、記憶などの知的機能の解明を目的とした認知心理学を基盤とした医療者・患者の行動を具体化させることである。そのためには、従来の基礎医学、臨床歯科医学に加えて、「歯科医療行動科学」をもっと詳細に1年次入学から、密接にリンクしながらラセン型に積み上げていく学問体系を開発する必要がある。ラセン型カリキュラムは、学習の順次性を考慮して振り返り学習することで、理解を深めていく方式である。医療者が省察的实践家といわれる所以であり、より具体化されたカリキュラムを提示しなければならない。

3. 研究の方法

(1) 行動科学におけるわが国の歯科医学教育機関における調査

各歯科医学教育機関のシラバスの収集
各歯科医学教育機関 29 大学に対して、本研究の意味を説明する文章を作り、シラバスの提供を依頼する。

関連担当教員へのアンケート調査
医療行動科学に関するアンケート
実施時期、科目名、その科目全体のコマ数、そのうち行動科学に関するコマ数を取る。
学士課程終了時に獲得すべき行動科学に関する用語(88語)を、コンピテンスレベルを考慮し、習得の必要はない、知っている必要あり、説明もしくは概説できる(3件法)に分けて区分けする。

(2) 聞き取り調査
連携研究者やその他本領域に精通する教員

に対するフォーカスインタビュー調査

(3) 歯科医療行動科学に含まれる関連内容の研究発表論文の抽出、キーワードの分析
わが国の論文が主となるが、関連キーワードを抽出し検討する。

4. 研究成果

現在、平成 27 年度シラバスは、29 校の全てが収集されている。しかし、その後のアンケートの回収が 17 校にとどまっている。

(1) 回収は、国公立大学 8 校、私立大学 8 校の合計 16 校、62%である。

(2) 行動科学を科目名としているのは、6 校にみられた。その他、主立った科目として、(医療)コミュニケーションの科目名は 8 校、プロフェッショナリズムは 4 校、医療倫理は 7 校、医療面接は 5 校にみられた。全体的には多くの種類の名称が使われていた。

(3) 単位数は 1~8 単位、実施学年も 2 年次~6 年次まで幅広く実施されていた。

(4) アンケート結果は、以下の通りである。

【問 1】.あなたは「歯科における行動科学」には、どのような内容が含まれるべきだと考えていますか？

医学教育における行動科学の役割は、全人的に患者を理解し、患者がそれぞれの健康と幸福を実現するための支援ができる医療者の育成であると考え。したがって、歯学部 の学生教育では、そのような医療者に必要な知識とスキルを身に付けさせるため、少なくとも以下の内容を教授する必要があると考える。

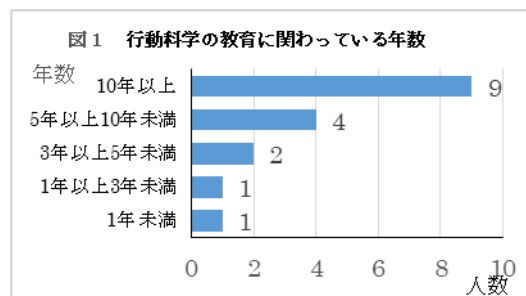
人間理解(心理学,社会心理学,社会学,倫理学,人間学,プロフェッショナリズムの理論を中心に)

コミュニケーション(信頼関係の構築,対人認知,コミュニケーションの基礎,医療コミュニケーション,医療面接の基礎の理論を中心に)

意思決定支援(診断学,医療面接,問題解決法,行動変容の理論を中心に)

保健指導(ヘルスコミュニケーション,認知行動療法の理論を中心に)などが概ねの意見であった。

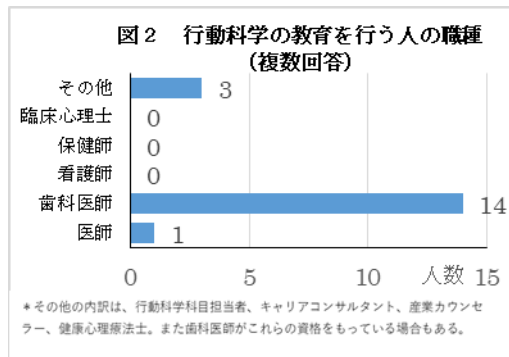
【問 2】.あなたは行動科学に関する科目の教育に何年くらい関わっていますか？



回答は、多くは 5 年から 10 年以上の経験

者から得ることができた。

【問3】.あなたの職種は以下のどれに該当しますか？



行動科学の教育を行う職種は、ほとんどが歯科医師であると予想していたが、行動科学という学問について、産業カウンセラー、健康心理療法士が担当していると回答する大学もみられた。このことは、行動科学に対する考え方の違い、そして心理学系教員の参与の必要性が示されていると考えられる。

【問5】.歯学部卒業時に習得が必要と考えられる行動科学のコンピテンシーレベルを選んでください。

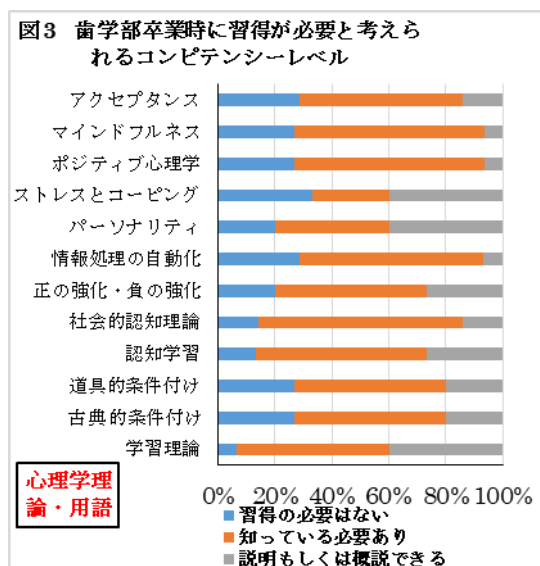


図3の用語については、概ね教育の必要性があるという回答であった。行動科学の基本的知識として心理学の重要性が示されている。

図4 歯学部卒業時に習得が必要と考えられるコンピテンシーレベル

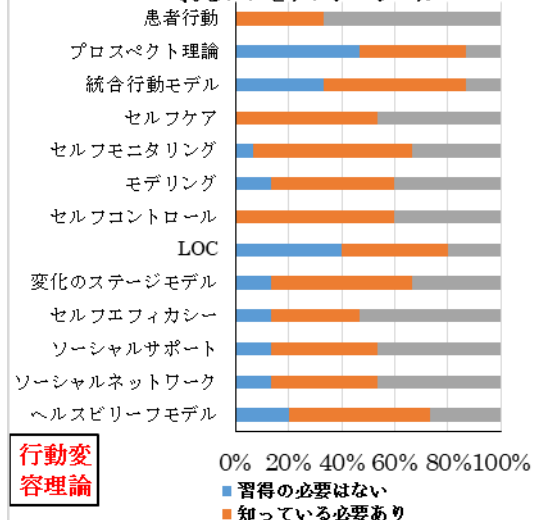


図4の用語については、行動変容そのものについての教育が統一されていないために、違いが生じてはいるものの概ね教育の必要性があると回答されている。これまでの歯学教育にはあまり重視されていない用語の重要性が示されている。

図5 歯学部卒業時に習得が必要と考えられるコンピテンシーレベル

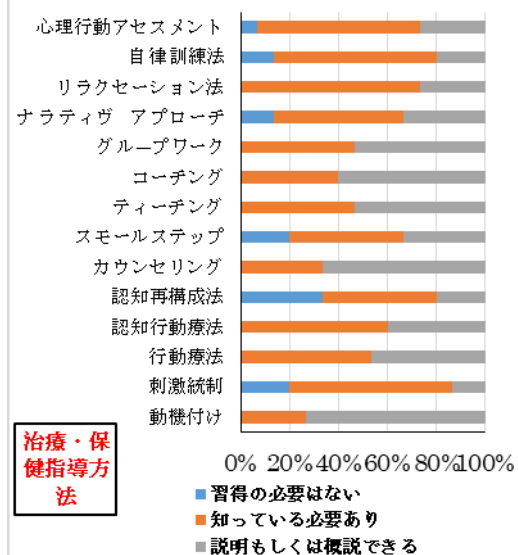


図5の用語については、歯科疾患の治療に対するアプローチの変化を示す教育用語を学ぶ必要性があるという回答であった。患者自身によるセルフコントロールの重要性を示す新たな指導に重点を置く必要性のあることが示されている。

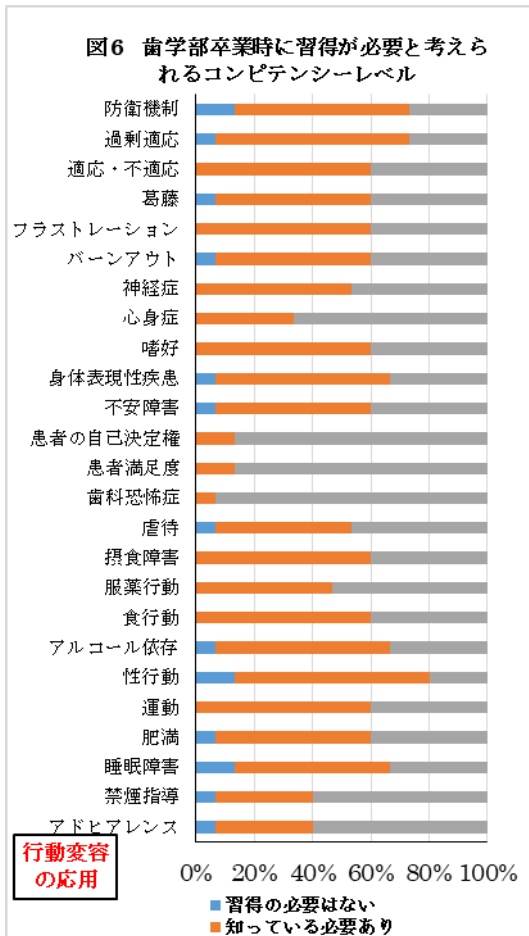


図6の用語は、歯科疾患の治療、特に、心身症領域の内容であるが、歯科の対象疾患として注目すべきで、卒業時に教育すべきコンピテンシーとしての用語にとらえられ、教育の必要性があるという回答であった。

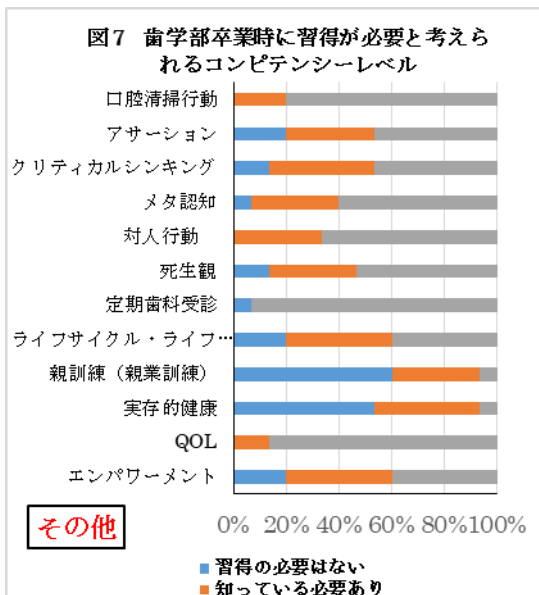


図7の用語についても、医学領域以外の対人関係スキル用語まで教育の必要性があるという回答も多くみられた。

現段階でのまとめ

行動科学に関して医育機関の教育現状を把握するために調査した結果、モデルコアカリキュラムのような教育指針がないため、各大学の担当者は歯科医師のみで考えるのではなく、心理社会系教員の援助を受けて大学独自にカリキュラムを組んでいることがわかった。

今後は、すべての大学のデータを入手調査し、現状を周知し、歯学領域の行動科学の枠組みのモデルを提唱する予定である。

<引用文献>

日本行動科学会編集：行動医学テキスト，中外医学者，東京，2015.

平成28年度改訂版 歯学教育モデルコアカリキュラム

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Mitsuhiro Ohta, Chieko Taguchi, Michiharu Shimosaka, Shinichiro Aoki, Takanori Ito: Multisource Feedback of Work Place-based Assessment in Dental Postgraduate Clinical Training. Oral Health and Dental Management, With peer review, 2018(IN PRESS).

Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Hiroyasu Endo, Shinichiro Aoki, Mitsuhiro Ohta, Michiharu Shimosaka, Takanori Ito: Evaluation and Correlation between Multisource Feedback and Objective Structured Clinical Examination for Trainee Dentists in Clinical Performance Assessment. Oral Health and Dental Management, With peer review, 2018(IN PRESS).

大沢聖子, 小方頼昌, 堀畑 聡, 伊藤孝訓, 三枝 禎, 渋谷 鑛: 「N.グランドデザイン」に基づいた新入生オリエンテーションの改善, 日大口腔科学, 査読有, 43(3・4合併号), 134-141, 2017.

伊藤孝訓: 総合歯科医の具有すべきコンピテンシー - 価値観に基づく診療 (values-based practice: VBP) -, 日総歯誌, 査読有, 9(1), 8-10. 2017

大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 遠藤弘康, 岡本康裕, 梶本真澄, 海老原智康, 李 潤喜, 黒澤仁美, 須永 肇, 伊藤早希, 土肥健二, 桃原 直, 大山 篤, 伊藤孝訓: 歯科学生が患者付き添い実習で感じた「違和感」, 日大口腔科学, 査読有,

42 (3・4 合併号), 73-79, 2016.

Hiroya Gotouda, Takanori Ito, Yasuhiro Okamoto, Takashi Uchida, Chieko Taguchi, Michiharu Shimosaka, Mana Fuchigami, Akira Fukatsu, Kensuke Matsune, Yoshiharu Kono, Kiyoshi Matsusima, Masamichi Komiya, Kazutaka Kasai, Koh Shibutani, Misao Kawara, and Ikuo Nasu: An Examination of the Post-graduate Dental Clinical Competency Evaluation at the End of Clinical Training for Professionalism in Dental Education, IJOMS, With peer review, 15(2):29-32, 2016.

Hiroya Gotouda, Takanori Ito, Yasuhiro Okamoto, Takashi Uchida, Chieko Taguchi, Michiharu Shimosaka, Mana Fuchigami, Akira Fukatsu, Kensuke Matsune, Yoshiharu Kono, Kiyoshi Matsusima, Masamichi Komiya, Kazutaka Kasai, Koh Shibutani, Misao Kawara, and Ikuo Nasu: A Study on the Occupational Stress of Trainee Dentists in Post-graduate Dental Education, IJOMS, With peer review, 15(2):33-39, 2016.

Hiroya Gotouda, Takanori Ito, Yasuhiro Okamoto, Takashi Uchida, Chieko Taguchi, Michiharu Shimosaka, Mana Fuchigami, Akira Fukatsu, Kensuke Matsune, Yoshiharu Kono, Kiyoshi Matsushima, Masamichi Komiya, Kazutaka Kasai, Koh Shibutani, Misao Kawara, and Ikuo Nasu: Correlation between Assignments for Professionalism of the Post-graduate Clinical Competency Evaluation and the Pre-graduate Objective Structured Clinical Achievement Test in Dental Education, IJOMS, With peer review, 15(2):40-45, 2016.

大沢聖子, 内田貴之, 青木伸一郎, 多田充裕, 遠藤弘康, 岡本康裕, 梶本真澄, 海老原智康, 李潤喜, 黒澤仁美, 須永肇, 大山篤, 川島正, 吉野祥一, 石井智浩, 神谷直孝, 伊藤誠康, 牧村英樹, 土肥健二, 伊藤孝訓: 患者付き添い実習を体験した学生の気づき, 日大口腔科学, 査読有, 42(1): 25-33, 2016.

[学会発表](計 8 件)

桃原直, 多田充裕, 海老原智康, 岩橋諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓: 経験的知識を学習した歯科学生の診断推論プロセスの検討, 第10回日本総合歯科学会 学術大会・総会, 2017, 新潟.

桃原直, 海老原智康, 遠藤弘康, 梶本真澄, 黒澤仁美, 大沢聖子, 多田充裕, 伊藤

孝訓: 仮説演繹法による学習で見られた歯科学生の診断プロセスの違い, 第27回日本口腔内科学会・第30回日本口腔診断学会合同学術大会, 2017, 札幌.

大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 梶本真澄, 大山篤, 伊藤孝訓: 患者付き添い実習における同意取得者の違いによる検討, 第36回日本歯科医学教育学会学術大会, 2017, 松本.

大山篤, 多田充裕, 青木伸一郎, 伊藤孝訓: 本邦の歯学部医療面接教育に関するシラバス調査, 第36回日本歯科医学教育学会学術大会, 2017, 松本.

萩原嵩之, 岡本康裕, 三木哲, 関真之, 関直美, 江森崇, 堀内一, 内田貴之, 遠藤弘康, 大沢聖子, 伊藤孝訓: 歯科学生の倫理ジレンマに対する意識の変化について, 第9回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2016. 岡山.

梶本真澄, 青木伸一郎, 海老原智康, 黒澤仁美, 土肥健二, 野本幸弘, 松原正治, 橋本満之, 屋代哲, 伊藤孝訓: 「あいづち」の分類からみたコミュニケーション行動の違いについて, 第9回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2016. 岡山.

伊藤孝訓: 本学「歯科医療行動科学」講義の医学教育的背景, 第16回日本大学口腔科学会学術大会, 2016, 千葉.

鈴木一吉, 吉田登志子, 長谷川篤司, 木尾哲朗, 早川佳穂, 小川哲次, 伊藤孝訓: 歯科医療面接のキャップストーン, マイルストーンの作成, 第35回日本歯科医学教育学会, 2016, 大阪.

[図書](計 1 件)

吉田登志子, 伊藤孝訓: 保健と健康の心理学 標準テキスト第6巻 健康・医療心理学, 岸太一, 藤野秀美編著 「第8章 口腔衛生」担当 (pp104-117 担当) ナカシニヤ出版, 2017, 京都.

6. 研究組織

(1)研究代表者

伊藤 孝訓 (ITO, Takanori)
日本大学・松戸歯学部・教授
研究者番号：00152108

(2)研究分担者

多田 充裕 (OHTA, Mitsuhiro)
日本大学・松戸歯学部・准教授
研究者番号：30260970
(平成29年度より研究分担者)
青木 伸一郎 (AOKI, Shinichiro)
日本大学・松戸歯学部・講師
研究者番号：60312047
大沢 聖子 (OSAWA, Seiko)
日本大学・松戸歯学部・助手
研究者番号：00152108

(3)連携研究者

小川 哲次 (OGAWA, Tetsuji)
広島大学・大学病院・教授
研究者番号：50112206
俣木 志朗 (MATAKI, Shiro)
東京医科歯科大学・医歯薬学総合研究科・教授
研究者番号：80157221
木尾 哲朗 (KONOO, Tetsuro)
九州歯科大学・歯学部・教授
研究者番号：10205437
大山 篤 (OHYAMA, Atsushi)
東京医科歯科大学・歯学部・非常勤講師
研究者番号：50361689